

2025_0528「北極圏の日暈（写真）」日々の理科 3947号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

.

夏至が近づいて、北極圏はほぼ白夜の季節に入っています。私が20年以上観測を続けている、スウェーデン・ヨックモック郡のポルユス村も夜の時間がほとんどなく、4月下旬から8月中旬まではオーロラの観測や観望もできません。しかし、北極圏では、オーロラ以外にも珍しい「空のショー」がたびたび観測されます。

その一つが「日暈（にちうん）」です。「日の暈（ひのかさ）」ともいいます。太陽に巻層雲（うす雲）や巻積雲（うろこ雲）などの、対流圏上層部の氷晶の雲がかかった時に現れる、「大気光学現象」の一つです。日暈そのものはそれほど珍しい現象ではなく、日本でも梅雨時の変化巻雲（さまざまな種類の氷晶雲が混在した状態）が太陽にかかると、よく見られます。北極圏のものが珍しいのは、地平高度の低い太陽に日暈がよく現れることです。

時には「幻日（げんじつ）」「幻日環」「上部ラテラルアーク」「タンジェントアーク（上端接弧）」などを伴うこともあります。・・・というよりも伴うことのほうが多いのですが、この時は日暈のみの出現でした。今後も注意深く観察したいと思っています。

(2025年5月下旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス／東京から遠隔観測)

